

見せます・出します「ヒヤリハット事例」 ～ 安全衛生活動への参加の見える化～

1. はじめに

建設現場は、工事の進捗と共に日々形状が変化し、気象などの自然の影響も常に受けている。また、多くの職種の人や建設機械が混在し、各々が独自に作業することから常に危険を伴っている。そのため、事故・災害を起こさないよう、他の事業場に比べて安全衛生管理を徹底して行わなければならない。昔から、1件の重大な事故・災害に対して、300件のヒヤリハットが存在するといわれている。私達は、このヒヤリハット事例を活用し、職員及び現場の作業員が安全衛生活動に積極的に参加することを目的に【見せます・出します「ヒヤリハット事例」】という「見える化活動」に取り組んでいる。ここでは、その取組み事例を紹介する。

2. ヒヤリハットと安全管理

事故と災害との関連を具体的に示したものとして、ハインリッヒの「1：29：300の法則」がある。この300件のヒヤリハットの背後には、多くの不安全な行動や不安全な状態があることも確認されている。



図-1 ハインリッヒの法則

このことから、災害をなくすには、重大な事故・災害や軽微な事故・災害だけでなく、ヒヤリハットやさらにその背景にある不安全な行動、不安全な状態を取り除かなければならない。災害を起こさないためにも、ヒヤリハットの段階で建設現場に働くすべての人々に「何が危険なのか？ どうすれば危険を除去し、災害を未然に防ぐことができるのか？」を理解してもらわなければならない。

3. ヒヤリハット事例の報告

安全管理の第一歩は、危険に対する感受性、すなわち危険なものを危険であると認識する感覚を高めることである。我々は、危険に対する感受性を高めるため現場で起きた、又は起きそうになった危険な状態、すなわちヒヤリハット事例を収集することにした。早速、現場にヒヤリハット報告書（図-2）の提出を求めた。

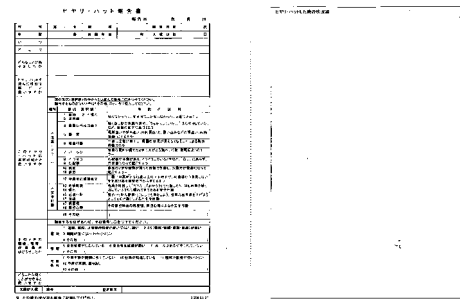


図-2 ヒヤリハット報告書

しかし、現場ではヒヤリハットが起こっても、日頃報告書などを書き慣れていないため、文書にすることは容易ではない。そこで、我々は簡略化した帳票（図-3）を作り、協力会社に協力を要請した。

ヒヤリハット報告書

報告者 所属： _____
氏名： _____

性別	男・女	職種	職別	次
年齢	歳	経験年数	年	入場日数
日				
いつ				
どこで				
どんなことか ありましたか。 思えば思ふも お断りします。 罰金等でも 構いません。				

原因	原因の整理	対応策
情報・言葉の伝達	知らなかつたり、伝達しに不十分であったことによるエラー	
作業	繰り返し型の単純作業中、「うっかりしていた」、「ぼんやりしていた」など、意識の低下によるエラー	
二重作業	作業中「聞き違い（内容的誤り）」と、思い込みなどの誤謬（内容的誤り）によるエラー	
準備行動	一点に注意が集中し、周囲の状況が見えなくなることによる動作・行動のエラー	
ヒヤリハット	作業の急ぎや慌てたときに人に対する動作、行動（無断侵入）のエラー	
サイン	心配や不安があり、イライラしているときなど、「心ここにあらず」の状態になって起こるエラー	
状況・疲労	疲労のときや疲労が蓄積した状態での作業、注意力が低下して起こるエラー	
作業中の機嫌不良	一瞬に作業中とは異なる以上の入力を指示、即座に作業に戻らないまま作業を継続する状態	
危険な状態・操作	危険な状態（「だらう」、「よからう」）で作業したり、同じ作業を繰り返しているうちに慣れてきてくる不審な行動	
原因	警告や警報の無視（「だめでも無視しよう、作業の出発を上げよう」としての行動）による不審な行動	
原因	警告・無視心 無視心による不審な行動	
その他		

図-3 ヒヤリハット報告書 簡易版

また、職員、協力会社との積極的なコミュニケーションを行い、社内会議、安全研修会、安全協議会、安全衛生パトロール等、いろいろな場所でヒヤリハットの話を出した。いわゆる「ヒヤリハットの見える化」である。

そのうち、ぼちぼちと報告が上がるようになり、その情報を協議会や日々の朝礼時に発表する現場も出てきた。現在、毎月行う教育訓練に「ヒヤリハット検討会」を設け、現場で起きたヒヤリハットについて、全員で検討し、その対策を全員で考えるよう指導している。その結果、平成24年3月末までに3件しか報告のなかったヒヤリハットの報告も、平成24年4月から平成24年10月末の間で、33件になった。



写真-1 朝礼時の発表

写真-2 ヒヤリハットの検討会

4. ヒヤリハット事例の紹介

(1) 現場から出てきた最近の事例

	ヒヤリハットの概要
①	転石をダンプトラックに積込中、荷崩れを起こし運転席側に落ちそうになった。
②	足場を通行中、布板を結束していた番線につまづき転落しそうになった。
③	玉掛けワイヤーを持った状態で合図をし、ワイヤーに指を挟まれそうになった。
④	移動式クレーンで荷卸し作業中、アウトリガーが地面に数センチめり込んだ。

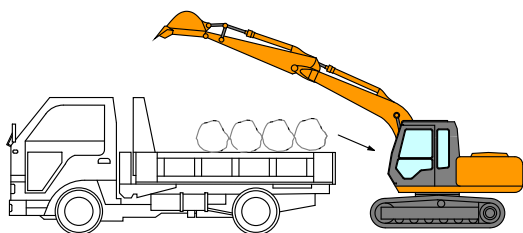


図-4 事例① 転石積み込み時のヒヤリハット



写真-3 事例①積込状況 写真-4 事例④アウトリガー部の沈下

(2) その他、報告のあった事例

	ヒヤリハットの概要
⑤	鉄骨の梁の上でレベル測定中、足が滑って墜落しそうになった。
⑥	足場の階段を降りるとき、手すりがなかったため、あと1段のところまで足を踏み外し、滑り落ちしそうになった。
⑦	バックホウに乗り込もうとしたとき、作業着のポケットが操作レバーに引っ掛かり、落ちそうになった。
⑧	可搬式作業台を使用して腰壁のコンクリートを打設していたところ、前日の降雨で地盤が緩んでいたため、可搬式作業台が傾き、墜落しそうになった。
⑨	盛土の施工でタイヤローラーに乗って転圧作業を行っていたところ、法肩が近づいてきたのでハンドルを切って回避しようとしたが、タイヤローラーが旋回し始めるのが思ったより遅かったため法肩から転落しそうになった。
⑩	信号機の電源ケーブルの交換作業で架線の撤去作業時、作業場所の足元に腕木等の材料を置いていたため、作業者がつまずいて転倒しそうになった。
⑪	雨天時に、歩いて現場巡回をしていたところ、足がぬかるみにはまり、転倒しそうになった。
⑫	開口部にコンパネによる蓋がしてあったが、すべり止めが外れたものを踏んだ際、転倒しそうになった。
⑬	資材置き場の草刈りをしていたところ、つまずいて転倒しそうになった。

(3) 厚生労働省 職場の安全サイトの事例

ヒヤリハットの概要	
⑭	午前9時50分頃、木造住宅の建方作業中、移動式クレーンで木材の梁を設置しようとした時、桁の上で作業中の作業者に吊荷が接触しそうになり、作業者はバランスを失い、危うく転落しそうになった。
⑮	午後2時頃、車の荷台に砂利を積み終わり、平らにならしていたところ、身体のバランスを失って車の荷台から転落しそうになり、荷台から飛び降りた。
⑯	午後2時頃、バックホウで残土整理中、重機から降りる時足を滑らして転倒し、そのまま斜面を滑り落ち、下に置いてあった廃棄用鋼材に激突しそうになった。
⑰	造成工事現場で、ダンプトラックで土を運んで来て、降ろそうといったん車を止め、シフトをバックに入れてバックしかかったところ、バックミラーに人が見えたので、あわててブレーキを踏んで事なきをえた。
⑱	基礎工事の資材置場において、H鋼材2本をクレーンで吊り上げトラックの荷台に移す作業を行っていたところ、鋼材を吊っていたワイヤーが切れて落下した。
⑲	農業用導水管埋設工事現場で、溝の中で床ならし作業中、地山が崩壊したので、慌てて逃げた。
⑳	国道改修工事において、残土をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込む作業中、「誰もいないはず!」と勝手に判断して右旋回したところ、ダンプトラックの横から作業員が出てきてバケットが作業員に接触しそうになった。
㉑	ドラグ・ショベルを使用しU字溝設置作業中、「安全ロックレバー」が突然外れ、あわてて誤操作し、右旋回状態になって、バケットが作業員に激突しそうになった。
㉒	ペレット状プラスチック廃材を入れタフレコンバッグ(約82kg)を搬出のためトラッククレーンで約2mつり上げてブームを回したとき、荷が大きく揺れて、地切りをした作業者の頭部に当たり、作業者は荷とトラックのアオリ板との間に挟まれた。



図-5 事例⑮



図-6 事例⑰



図-7 事例⑳



図-8 事例㉑

5. おわりに

今までは、社内で起きた災害事例を社内のネットワークを使って限られた現場で見える化を行ってきたが、今後は、いろいろなヒヤリハットを出してもらい、また、開示することによって「ヒヤリハットの見える化」を行いたい。

現場から、文字を書くのは苦手だが「こういうことがあった」と口頭でも報告してくれる人も出てきている。徐々に現場の安全に対する意識が高まり、それと同時に現場も整理整頓されてきたようである。

今回、新たにヒヤリハットを出してもらい、それを開示する。更に、これらを使って現場でコミュニケーションを図り、新たなヒヤリハットを出してもらおう。そうすることによって、現場で起きたヒヤリハットを多くの現場で認識し、同じようなヒヤリハットが発生しないような対策を行う。出します・見せます「ヒヤリハット事例」が多くの現場の見える化となり、すべての現場で事故・災害が起こらないようになれば幸いである。